

ついに100回を迎えたこのひみつの本棚！記念すべき今回に相応しい1冊を選びました。

『はてしない物語』

ミヒャエル・エンデ／作 上田 真而子 佐藤 真理子／訳 岩波書店 1982年
3089円

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★★★★ 中学生★★★
高校★★★ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

いじめっ子から逃げてきたバスチアンは、飛び込んだ古本屋で1冊の本に吸い寄せられ盗んでしまう。その本の題名は「はてしない物語」。学校の物置に潜んで本を読み始めたバスチアンは、ファンタジーエンという架空の国の危機を救う旅に出た勇者アトレーユの物語を読み進むうちに、ファンタジーエンを救う鍵を握っているのは自分だと気づく。

<子どもに手渡すときのポイント>

この本にはハードカバーと文庫本がありますが、子どもに手渡す時にはハードカバーをお勧めします。ハードカバーは作者の意向を汲んで物語に出てくる「はてしない物語」と全く同じ装丁となっており、読み始めた子どもは本の装丁の記述のところで自分の手にしている本も同じ本だと気がつくでしょう。

この作品を気に入った子どもには、エンデの他の作品や、現代の作家たちがこの作品へのオマージュとしてファンタジーエンを舞台に新たな物語を描いた「ファンタジーエンシリーズ」(SBクリエイティブ)を紹介してみてください。

また、この作品を原作とした映画「ネバーエンディングストーリー」も1980年代に公開されています。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手にとってみてください。

総合図書館 重村